

第5章 主要農産物の生産等の動向

1 稲作

(需要に応じた米生産の推進)

主食用米の全国ベースの需要量は一貫して減少傾向にあり、国は、行政による生産数量目標の配分を廃止した平成30年産（2018年産）以降も、産地が主体的に需要に応じた生産・販売を判断できるよう、主食用米等の需給見通しについて情報提供を行っています。

本道においては、北海道米への多様なニーズに的確に応え、価格の安定による農家所得の確保を基本として本道稲作経営の安定化を図るため、道及び地域の「農業再生協議会」が主体となり、全道及び地域協議会ごとに「主食用米等の需給見通し」「産地の作付意向」「集荷団体等の販売計画」の3つの要素を総合的に勘案した「生産の目安」を設定するなど、全道の生産者、農業関係機関・団体、集荷業者、行政等「米関係者」が一体となったオール北海道体制で需要に応じた米生産を推進しています。

図表5-1-1 全国の主食用米等の需給見通し

(単位：万トン)

区分	H28年	29	30	R 1	2
当年6月末民間在庫量 A	207	200	187	188	189
当年産主食用米等生産量 B	743(735)	735(733)	735	718～726	708～717
当年/翌年主食用米等供給量計 C=A+B	950(942)	935(933)	922	906～914	897～906
当年/翌年主食用米等需要量 D	762	753	742	726	717
翌年6月末民間在庫量 E=C-D	188(180)	182(180)	180	180～188	180～189

資料：農林水産省「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」

- 注：1) 前年11月公表時点の見通しであり、平成29年産（2017年産）までの「当年産主食用米等生産量」は生産数量目標である。
- 2) 平成29年産（2017年産）までの（ ）内は自主的取組参考値（仮にこれだけ生産すれば、民間在庫量が過去の平均水準又は近年では低位の水準になるもの）である。
- 3) 「主食用米等」には、主食用に供給されるもののほか、加工用途及び輸出用に供給されているものの一部を含む。
- 4) ラウンドの関係で内訳が計と一致しない場合がある。

図表5-1-2 生産の目安（全道）

区分	数量 (t)				面積 (ha)			
	水稻全体	主食用	加工用	その他	水稻全体	主食用	加工用	その他
H30年産	584,322	540,622	28,789	14,911	107,019	99,015	5,273	2,731
R 1年産	590,751	537,341	31,175	22,235	107,848	98,030	5,734	4,084
2年産	586,614	534,060	32,872	19,682	107,049	97,402	6,019	3,628

注：その他は非主食用米のうち、新規需要米等をいう。

（令和元年産米の作柄は「やや良」）

本道における水稻（子実用）は、主食用米の需要量の減少に対応した「生産の目安」に沿って作付されており、令和元年産（2019年産）の作付面積は、前年に比べ1,000ha減少し10万3,000haとなりました。

作柄については、5月下旬から7月中旬にかけておおむね天候に恵まれたことなどから、10アール当たり収量は571kgとなり、作況指数は104の「やや良」、収穫量（子実用）は58万8,100トンとなりました。

図表5-1-3 水稻（子実用）生産の推移（北海道）

（単位：千ha、千トン）

区分	H12年産	17	22	27	28	29	30	R 1
作付面積	134.9	119.1	114.6	107.8	105.0	103.9	104.0	103.0
収穫量	729.1	682.6	601.7	602.6	578.6	581.8	514.8	588.1
作況指数	103	109	98	104	102	103	90	104

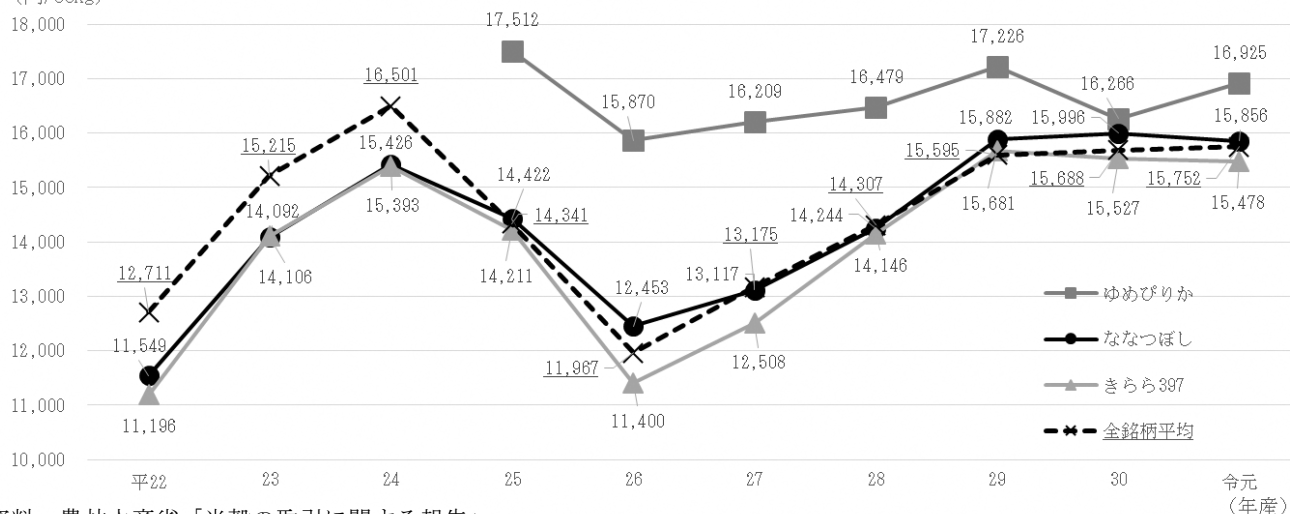
資料：農林水産省「作物統計」

（需給環境と価格）

米の相対取引価格は、全国的な需給環境により変動しており、平成27年産（2015年産）以降は、飼料用米等の生産拡大など全国的な主食用米の在庫量改善が進んだことなどから上昇し、平成29年産（2017年産）以降は横ばいとなっています。令和元年産（2019年産）の出回りから令和2年（2020年）2月までの全銘柄平均価格は玄米60kg当たり1万5,752円、北海道産「ななつぼし」では1万5,856円となっています。

図表5-1-4 米の相対取引価格の推移

（円/60kg）



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注：1）出荷業者と卸売業者等との間で決定された主食用の相対取引価格（運賃、包装代、消費税を含む1等米の価格）を加重平均したもの。

2）価格に含む消費税は、平成26年（2014年）3月以前は5%、平成26年（2014年）4月以降は8%、令和元年（2019年）10月以降は軽減税率の対象である米穀の品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

3）令和元年産（2019年産）の価格は、出回り～令和2年（2020年）2月の平均価格である。

(多様なニーズに対応した米づくりの推進)

道では、「北海道優良品種作付指標」を策定し、品種特性に応じた適地適作を基本とした作付けを推進しており、用途に対応した様々な品種が作付けされています。

主食用米では、北海道米は全国的にも良食味米として高い評価を受けており、一般財団法人日本穀物検定協会による令和元年産米の食味ランキングでは、「ゆめぴりか」、「ななつぼし」、「ふっくりんこ」が最高ランクである「特A」を獲得しています。

図表5-1-5 北海道米の食味ランキング

品 種	H22年産	27	28	29	30	R 1
ななつぼし	特A	特A	特A	特A	特A	特A
ゆめぴりか	(特A)	特A	特A	特A	特A	特A
ふっくりんこ	—	特A	特A	A	A	特A

資料：(一財)日本穀物検定協会「食味ランキング」

注：() は参考品種としての食味試験結果。

また、主食用米の需要量が年々減少する中、低価格帯中心の業務用等に対応した米へのニーズは堅調であることから、道では、中食や外食等の業務用に適した「そらゆき」をはじめ、冷凍ピラフ等の加工米飯用に適した「大地の星」や「ほしまる」、酒造用に適した「吟風」や「彗星」、「きたしずく」、多収で飼料用に適した「そらゆたか」等、多様なニーズに対応した米づくりを推進しています。

また、経営規模の拡大や担い手の高齢化が進行していることなどから、水田の地下かんがいシステムの整備と組み合わせた直播栽培の導入やICTの活用による省力化などを進めており、平成30年(2018年)に直播栽培に適し食味も優れた「えみまる」が新たに優良品種に認定されたことから、年々面積が増加傾向にある直播栽培の更なる拡大・定着が期待されます。

図表5-1-6 直播栽培面積の推移(北海道)

(単位：ha)

区 分	H12年産	17	22	26	27	28	29	30
乾田直播	75	77	355	788	921	920	1,023	1,149
湛水直播	68	132	490	895	985	1,057	1,251	1,171
計	142	209	845	1,683	1,906	1,977	2,273	2,319

資料：北海道農政部調べ